2012年3月21日発行

2012年度春季企画展

戦地に逝ったワセダのヒーロー

—松井栄造の24年—

（非売品）

編集　発行
早稲田大学大学史資料センタ
Waseda University Archives
〒 62-0041　東京都新宿区早稲田鶴巻町513
Tel　03-5286-1814　Fax　03-5286-1815
URL　http://www.waseda.jp/archives/

© 2012 Waseda University Archives.
3,000部　不許複製

選抜2回、夏1回の甲子園優勝を果たし、早稲田に進学後もその華麗なプレーで神宮を沸かせた松井栄造。中国戦線で壮絶な戦死を遂げるまでの24年の軌跡を追う。

2012年度春季企画展

戦地に逝ったワセダのヒーロー

松井栄造の24年

2012年3月21日（水）～ 4月21日（土）

10～17時（入館は16時30分まで）**日曜休館**　＊但し3月25日（日）・4月1日（日）は開館（10～16時）

早稲田大学早稲田キャンパス2号館1階企画展示室　入場無料

早稲田大学大学史資料センター
TEL03-5286-1814 http://www.waseda.jp/archives/

2012年度春季企画展

戦地に逝ったワセダのヒーロー

—松井栄造の24年—

はじめに

日中戦争の勃発から、今年で75年。解決の糸口の見えない泥沼状態となったその戦争は、4年後にはアメリカを敵とする破滅の戦争へと突き進んでいく。

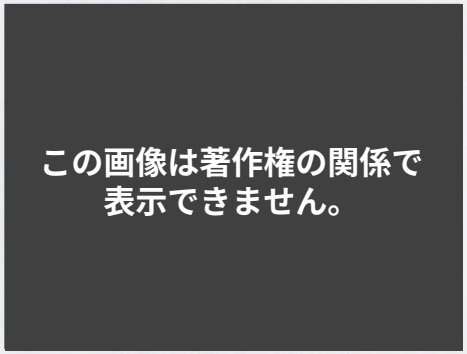
中国との戦争がはじまった年、ワセダの野球部にひとりのルーキーが入部した。選抜2回、夏1回の甲子園優勝を果たした注目の新人、松井栄造である。ワセダでの5年間　その端正なマスクと華麗なプレーは、戦時色に塗り固められた世相とは対照的に、神宮球場を歓声の渦へとつつみこんでいった。

持てる才能を活かして可能性に挑戦し、多くの人びとに歓喜を与えつづけたその個性は、けれども1発の銃声によって突如失われることになる。

輝きに満ちた生の軌跡に戦争の爪痕が刻みこまれた松井栄造の24年をふりかえり、私たちの記憶から薄らぎつつある戦争の現実を、敗戦から67年の今、改めて問い直したい。

2012年3月　　早稲田大学大学史資料センター

※展示期間中、展示品の入れ替えなどを行う場合があります。



1940年秋季リーグ戦早明戦
バントからヘッドスライディングする松井栄造　(『野球界』1940年12月号)

一　少年時代

松井栄造は1918年11月10日、浜松市田町でかもじと額縁を商う松井半次郎と多喜子の子として生まれた。野球が盛んな浜松で　松井少年は浜松元城尋常小学校3年からボールを握りはじめた。ベーブ　ルースに憧れて練習に励むうちに、少年は瞬く間に天性の才能をあらわした。1930年夏、早稲田の戸塚球場で開催された全国少年野球大会A組に投手として出場すると、強豪校を倒して優勝。翌31年も優勝し、連覇を達成した。

日本全国が野球で熱狂していた時代、中学野球界での松井の活躍を見越したスカウト合戦がはじまった。野球有名校の校長らが相次いで松井家を訪れ、金銭の話も飛び交った。だが、岐阜市立岐阜商業学校野球部後援会長で建築家の遠藤健三が出したスカウトの条件は異例だった。——金銭は一切出さないが、栄造少年を　人前の人間として育て上げ、大学卒業まで責任を持つ——。最愛の息子の将来を考えた父は、遠藤に栄造を託すことを決めた。満州で砲煙がのぼりはじめる頃のことだった。

松井半次郎が栄造を遠藤健三に託した日　於弁天島松月旅館（清水昇氏所蔵）
後列右から2人目遠藤健三、3人目松井半次郎、4人目松井栄造

[展示資料]

アルバム
　清水昇氏所蔵
松井家に遺されていた日記をはじめとする栄造の遺品類は、1945年6月の浜松の大空襲で失われた。だがアルバム類だけは、空襲を懸念した両親が事前に親戚に預けて戦火を逃れた。

二　岐阜商業時代①

遠藤健二の下で育てられることになった松井少年は浜松を離れ、岐阜市金華尋常高等小学校高等科１年へ転校し、翌1932年岐阜市立岐阜商業学校に入学、同時に野球部へ入部した。子供に恵まれなかった遠藤夫妻は松井をわが子のようにかわいがりながらも　父半次郎との約束を果たすため、健三は少年を厳しくしつけた。それを陰でやさしく労わったのが妻の道子だった。

松井２年の春、村瀬保夫主将率いる岐阜商業は全国選抜中等学校野球大会に出場、強豪明石中学を決勝で破り　優勝した。弱冠14歳ながらも、松井は勝利投手に輝いた。この決勝戦で　松井の左腕から繰り出されるインドロ（縦に鋭く落ちるカーブ）は二尺（約90センチ　落ちたとの評判が広まり　以後「三尺」が松井のあだ名になった。

1935年春、全国選抜野球大会で岐阜商業は２度目の全国制覇を成し遂げた。準決勝と決勝は１点差の熱戦となった。とくに準決勝の愛知商業との試合は雨天再試合の激闘が繰り広げられた。投打に活躍した松井は優勝後のインタビューで　チームの勝因を　一致結束」にあると語った。チーム力で勝つ、これが岐阜商野球の真髄だった。

［展示資料］

遠藤健三編『遠藤道子遺稿　歌集　|砂』
1946年　大学史資料センター所蔵
遠藤健二の妻道子の歌集。遠藤道子は山下陸奥に師事し、和歌をよくした。

アルバム
清水昇氏所蔵

松井栄造サインボール
岐阜県立岐阜商業高等学校所蔵

松井栄造（左）と長良治雄（右）（清水昇氏所蔵）

よろこびの言葉かくればうつむきて
　　涙ぐみをり少年松井は
　　遠藤道子　　1933年作

岐阜商業時代②

1936年度、松井は岐阜商業最後の学年を迎えた。岐阜商はこれまで春は５年連続で出場し、うち２度の優勝を果たしながらも　夏の全国大会予選の東海大会では敗退が続いた。主将となった松井は親友の長良治雄とともにチームの牽引役となり　初出場　初優勝を胸に誓い、日々の猛練習に励んだ。投打に卓越した岐阜商業は強豪校のひしめく東海大会を勝ち抜き、全国中等学校優勝野球大会初出場を果たした。

甲子園大会を岐阜商は　回戦から圧倒的な強さで勝ち進んだ。決勝は過去２度の準優勝を誇る平安中学戦。岐阜商は松井のピッチングで平安中の打棒を１点に抑えて圧勝し　全国制覇の栄冠に輝いた。栄えある深紅の優勝旗をささげ持つ松井ら岐阜商メンバーの凱旋は、岐阜の市民たちを熱狂の渦に包みこんだ。

１試合13塁打（本塁打１　二塁打3。1936年度夏盛岡商業戦）の記録を打ち立て松井は甲子園を後にした。次なる目標は実力　人気ともに日本最高峰の東京六大学リーグ戦。早稲田への入学が決定した松井は、慶應へ進学する長良治雄と早慶戦の舞台で熱戦を繰り広げることになる。

1936年度全国中等学校優勝野球大会優勝時の岐阜商業メンバー（大学史資料センター所蔵 森美代子氏 2011年度寄贈）
左から長良治雄、２人目森武雄、８人目近藤清、13人目松井栄造、14人目加藤三郎

［展示資料］

炎天下の球を追ふ子のユニフォームに
　　お守袋しかと縫ひつく
　　遠藤道子　　1936年作

近藤清「夏休の日記」
1936年7月20日　8月31日　近藤幸義氏所蔵
岐阜商業2年の近藤清の「夏休の日記」。近藤はショートを守り　決勝戦では1打点を挙げた。甲子園制覇へと至る日々の練習と、試合にのぞむ心情が綴られている。

近藤清「夏休の日記」 1936年8月20日
岐阜商業が勝ったのだ、優勝したのだ。どんよりと曇ってはいるが、サイレン高らかに鳴響き　我々はもう胸にこみ上げてくるものを感じた。
終に雌伏十二年、夏の甲子園制覇の待望が達せられたのだ。殊勲者松井が、あの真紅の大優勝〔旗〕をうけに行く時、松井君の最後の大会をかざってやった選手一同も、自分が全部の技倆を発揮して優勝出来た彼も、どうして喜ばずにはいられないだろう。僕はもうたまらなく嬉しく、泣きたくなった。

1936年度全国中等学校野球大会優勝
於岐阜市（清水昇氏所蔵）

この画像は著作権の関係で
表示できません。

夏の甲子園優勝に喜ぶ遠藤健三宅
（『岐商野球部五十五年史』）
前列右から2人目遠藤道子

優勝記念ボール
1936年夏　岐阜県立岐阜商業高等学校所蔵

第22回全国中等学校優勝野球大会優勝旗
岐阜県立岐阜商業高等学校所蔵

「岐阜商業優勝記念帖上下
昭和十一年八月十一　二十日」
岐阜県立岐阜商業高等学校所蔵

松井栄造揮毫「誠実に優る智慧なし」
岐阜県立岐阜商業高等学校所蔵

岐阜商業時代の松井栄造
1935年 於岐阜商グラウンド
（清水昇氏所蔵）

二　早稲田大学時代①

1937年4月　松井は早稲田大学第一早稲田高等学院に入学した。甲子園優勝投手の野球部入部は、野球ファンの関心を神宮へと惹きつけた。松井の六大学リーグ戦のデビューは、中国との戦争がはじまり、連日の新聞紙面に「進撃」や「占領」の文字が躍るなかで開催された秋季リーグ戦、早稲田の初戦立教大学戦となった。白熱したゲーム展開の中　同点で迎えた9回裏、松井は若原正蔵からマウンドを引き継ぎ、延長11回立教の打線を無得点に抑え　初陣を勝利で飾った。
翌38年7月、日中戦争下の非常時が叫ばれる中、早大野球部はハワイ遠征の途に立った。アメリカ海軍チームとの試合など、松井はじめ部員たちはひと月におよぶハワイでの日々を満喫した。
39年4月、松井は早稲田大学商学部に進学した。バッティングのセンスの良さを買われた松井は肩を痛めていたこともあり、このシーズンから打者へと転向した。小野欣助や辻井弘ら同期のライバルたちと猛練習を重ね、以後卒業までの3年間　早稲田の主力バッターとなっていく。
この年の秋ごろから、作家尾崎一雄との交流がはじまった。文学が好きだった松井は尾崎と会うのが何よりも楽しみだった。尾崎も松井の文武に秀でた才能を愛した。二人の交流は戦地での文通まで続いていく。

［展示資料］

1937年度早稲田大学野球部新人北海道遠征
1937年8月（清水昇氏所蔵）
小野欣助（左）と松井栄造（右）

この画像は著作権の関係で
表示できません。

早稲田大学野球部ハワイ遠征
1938年7～8月（大学史資料センター所蔵）
左から6人目松井栄造

アルバム
「昭和十二年度　新人北海道遠征記念早稲田大学野球部」
1937年　清水昇氏所蔵

アルバム「布哇遠征紀念写真帖　早稲田大学体育会野球部」
1938年　清水昇氏所蔵

映画「暢気眼鏡」撮影現場
尾崎一雄（前列左から２人目）と
松井栄造（後列右から２人目）（清水昇氏所蔵）

松井栄造書翰　尾崎一雄宛
1939年10月12日付
県立神奈川 近代文学館所蔵
尾崎さん。唯今は全く愉快な時でした。白鉢巻の下にかくされた眉毛が絶へず気になり乍らも、貴方の口から洩れるユーモアたっぷりなお話に、誠、全精神を耳に集中して楽しく聞入った事でした。

早稲田大学時代②

1940年6月、紀元2600年奉祝東亜競技大会の日本代表に、松井は小野欣助らとともに選出された。六大学リーグのライバル明治からは、岐阜商業の後輩加藤二郎が選ばれた。対フィリピン戦加藤の放った快音に、松井は久しぶりに歓声を挙げた。

松井のプレーはしばしば「華麗」と形容され、多くのファンを魅了した。1940年春の早慶第1回戦9回裏、決勝点となったスクイズ。同2回戦左飛を本塁へのバックホーム。同年6月東亜競技大会ハワイ戦での代打レフト前ヒット。同年秋早明戦での二塁前バント。41年春の早慶1回戦満塁での二塁打　…。

1941年度は松井の最終学年、翌42年3月が卒業予定だった。だが米英との関係が緊迫する中、1941年10月16日公布の勅令により　大学学部等の在学修業年限が短縮された。松井たち最高学年生の12月繰り上げ卒業が決まったのである。

勅令公布の翌17日は、早稲田の5シーズンぶりのリーグ優勝をかけた立教戦。松井は絶妙のバントで先取点をたたき出し、勝利に貢献した。松井は優勝の興奮を、捕手として石黒投手をリードした最愛の後輩近藤清　そして新人の近藤を捕手として育てあげ、この試合は控えに回った小野欣助らとともに味わった。

松井は成長した後輩に早稲田常勝を託し、太平洋戦争開戦で街頭が沸き立つ中、神宮と早稲田の杜を後にした。

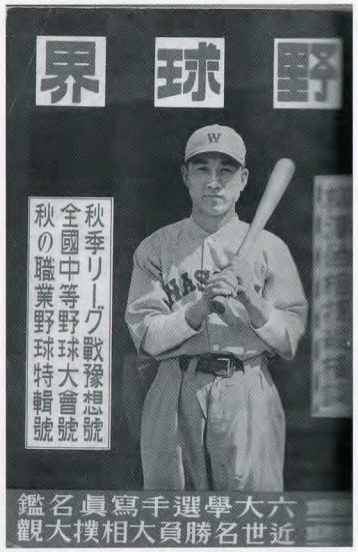
［展示資料］

NIPPONユニフォーム
松井栄造着用
1940年　静岡縣護國神社所蔵

松井栄造（清水昇氏所蔵）

早稲田大学野球部ユニフォーム
小野欣助着用
大学史資料センター所蔵

松井栄造書翰　近藤清宛
年6月27日付　近藤幸義氏所蔵
小生帰りが遅くなって貴君熟睡の様子でしたので　明朝勝手乍ら貴君御起床次第小生を起して下さい。
貴君のお話も承りたいし、小生も話しがありますので、是非お忘れなき様お願い致します。



『野球界』1938年10月号（図書館所蔵）

松井栄造書翰　尾崎一雄宛
1941年5月12日付
県立神奈川 近代文学館所蔵
最近のワセダの学生にはワセダを思ふ熱の少い奴があって憤慨に堪へません。この間も僕の部屋へ遊びに来た　人が、『野球を見物するのはスコアボルドの前に限る』と言ふから、『どうして？』と尋ねると、『応援しなくていいから。』ぶんなぐってやりたくなりました。母校の名誉をかけての戦士を前にして堂々とこの言をはき得る奴、もうこんな奴とは絶交だと腹の中でどなってやりました。

大道　旧姓中島　信敏氏談
「松井栄造君とは、1937年野球部入部の同期です。松井君の投球、打撃、走塁、どのフォームをとっても華麗でしたね。自然に技量が備わった、天才肌のプレーヤーでした。同期25人の中でも別格でした。人格も立派で、学生野球の真髄を全うした選手でした。伊丹安弘監督は、松井君が生きていれば、早稲田大学野球部の監督を　度やらせたかったとおっしゃっていました。

松井栄造（下）と長良治雄（上）（清水昇氏所蔵）

写経　松井栄造筆
1941年夏　静岡縣護國神社所蔵

アルバム「昭和十六年秋季リーグ戦優勝記念
明治神宮大会三連覇記念　早稲田大学体育会野球部」
1941年　清水昇氏所蔵

森本多美子氏（松井栄造実妹）談
兄の紀司（栄造の弟　が出征する日（1941年12月1日、現役兵として歩兵第二十四聯隊補充隊に入営 、早稲田の卒業を控えた栄造兄が浜松の実家に帰ってきました。すでに紀司兄は浜松駅に向かった後でしたので　栄造兄はすぐにその後を追いました。そして栄造兄は駅の改札口で、大勢の兵隊さんたちに交りプラットホームに消えていく紀司兄に向って、『紀坊、おれも後から行くからな』と叫んだのを、今でも覚えています。

四　戦死①

早稲田を卒業した松井は都市対抗野球の強豪藤倉電線に就職するが、翌1942年2月1日 歩兵第三十四聯隊に現役入隊した。わずか10日ほどの会社勤めだった。同年5月豊橋陸軍予備士官学校に入校し　甲種幹部候補生)、10月卒業。戦地へ赴く直前、松井は早大野球部の合宿所を訪れた。六大学秋季リーグを早稲田は優勝で飾ったものの、再び神宮でプレーできるのか、部員たちが日々不安に苛まれる中での再会だった。

同年暮、見習士官として中国に渡った松井は、年が明けると大別山作戦、4月からは江南作戦に参加した。山岳地帯での激戦が続いた。うち続く戦闘の中でも、松井は本が読みたかった。ハーモニカを奏でたかった。そして弟紀司のこと、六大学野球の前途が案じられてならなかった。

1942年12月18日　松井紀司、ガダルカナルで戦死。
1943年　4月28日　東京大学野球聯盟、文部省の要求に従い、解散を決定。

5月28日　湖北省宜昌の西、姚家坊付近での夜間の戦闘、敵の機関銃が待ち構える中での肉弾突撃だった。小隊長として　突っ込め」の号令をかけた松井は、部下を指揮して突入、一発の銃弾が頭部を直撃した。午後10時10分のことだった。

戦地に出立する直前に松井がしたためた遺書には、「戦死の事を知りましたならば、勇敢に戦って戦ひ抜いて微笑って死んで行った雄々しい姿を想像して下さい。　　と綴られていた。

［展示資料］

日章旗　贈松井栄造
岐阜県立岐阜商業高等学校所蔵
早大と岐阜商両野球部関係者の揮毫によるもの。

松井栄造書翰　尾崎一雄宛
1942年6月24日付　県立神奈川 近代文学館所蔵
·御本折角送って頂いて喜こんで読まうと思っても読む事が許可されず、結局私物として取りまとめられてしまひました。取りまとめられる前に一寸開いた箇所が"不良少年"といふところ、走り読みして満足して居ります。故郷から面会に来ました折に持って行って貰ひます。やがて読む事の出来る日も来ます。

豊橋陸軍予備士官学校時代
（清水昇氏所蔵）

松井栄造書翰　近藤清宛
1942年9月25日付　近藤幸義氏所蔵
リーグ戦はどうですか。考へ違ひの上級生振りをいましめる様、あくまで新鮮味を失はないで頑張って下さい。森君は如何。もうそろそろ頭角を現はす可き時機だね。力を合せてよろしく頼むよ。

松井栄造書翰　松井弘次宛
1943ヵ年　清水昇氏所蔵

松井栄造書翰　松井弘次宛
1943年　清水昇氏所蔵
川田順著随筆集"偶然録"至急お送り下さい。尚煙草ケース（二十本入）万年筆を紛失してしまつたから頼みます。　·"諷詠十二月"一好達治著、若し良いと思つたら　これも頼みます。

松井栄造書翰　尾崎一雄宛
1943年　県立神奈川近代文学館所蔵
今春リーグ戦はどうなるのですか。無くなってしまふとか、そんな話もきゝました　小生等今や中支第一線警備田舎の支那家屋の土間に寝起して守りに就いて居ります。電気は勿論なく　ローノク光丈にはいさゝか憂鬱です。生命には未だ別条ありません。生ある限り運動精神を発揮して頑張ります。

松井栄造書翰　松井弘次宛
1943年　清水昇氏所蔵
出した手紙が往ったきり何の返事ももたらさないのはどうしたことでせう。一通出してある筈ですが。中支も雨期に入ります。途はどろどろになります。ニュース映画の通りです。又旅に出ます。—藤の花咲く頃—
兄弘次は、詩集とハーモニカを戦地に送るため荷造りしたものの、郵便局で断られた。戦局悪化で送り届けることができないとの理由だった。兄は終生、弟の望みをかなえてやれなかったことを悔いた。

遺書
1942年12月2日　　静岡縣護國神社所蔵
遠藤健三に宛てられた遺書

鉄帽覆
静岡縣護國神社所蔵
松井栄造が戦死時に被っていた鉄帽覆。左上方に弾痕がある。

郵便貯金通帳
清水昇氏所蔵
戦地へ出立する際、松井はこの通帳を家に残しておくと言ったが、母が戦地でも貯金できるよう持参することを勧めた。戦死時、松井はこの通帳を身につけていたものと見られる。

松井勲書翰　松井半次郎宛
1943年6月11日　清水昇氏所蔵
松井勲は栄造の上官で陸軍士官学校出身の中隊長。栄造戦死の状況を手紙にしたため、父半次郎に送った。なお松井勲は、江南作戦後の常徳作戦で戦死した。

「昭和十七年十　月早々　松井は『いよいよ』というとき　遠藤を訪ねる。
·遠藤は、陸軍少尉の正装をした松井を見て　すべてを悟った。
互いにくみかわすウイスキーが口に苦かった。『生きて帰ろうなんて、思うなよ』。ポツリ、と遠藤はいった。その顔をのぞきこむように松井が答える。『はい、やります』。息を殺すようにしていた道子が、たまりかねて泣き伏した姿を　遠藤は、いまも忘れてはいない。　『読売新聞』1977年8月12日付

戦死②

松井戦死の一報が早大野球部に入ったのは、6月10日過ぎのことだった。近藤清が受けた衝撃は計り知れないものがあった。 あと一年の学生々活を立派に了へて　必らず仇をとります　と　近藤は誓わないではいられなかった。

沖縄戦最中の1945年4月8日　特攻出撃を前にした休暇で近藤は岐阜に帰り、遠藤健三のもとへ挨拶に行った。しかし遠藤の家に、道子夫人の姿はなかった。

その前年の11月10日、道子は42回目の誕生日を迎えた。同日生まれの松井が生きていれば　26歳になっていた。翌11日　道子は美濃町の法要に出かけ、その足で浜松の松井家を訪れた。松井の母に別れを告げ、そのまま行方を絶っていた。

そして

1945年3月10日　小野欣助　台湾台中にて特攻訓練中事故死。
4月　6日　加藤二郎　神風特別攻撃隊第一正統隊員として出撃し戦死。
4月28日　近藤清　神風特別攻撃隊第三草薙隊員として出撃し戦死。
5月25日　長良治雄　沖縄へ弾薬を輸送中、米軍機の攻撃を受けて戦死。

昭和が終わりに近づきつつあった頃、毎年8月15日の甲子園球場には、正午のサイレンとともに、ひたすら祈りをささげ続ける遠藤健三の姿があった。

［展示資料］

遠藤健三（故人）談

〔妻の道子が〕法要で美濃町まで出かけたまんま、姿を消してしまったんや。松井の死が、ひとつショックやった。松井に会うといっては、よう靖国神社に出かけとった。そのうえに　〔前年11月11日、陸軍士官学校生の甥が岐阜各務原飛行場で試験飛行中に事故死〕。道子には耐えられん寂しさだったんでしょうな。みんな、子どもみたいに思っとったから。たぶん、気持ちの限界を超えたんやろうなあ。『読売新聞』1977年8月13日付

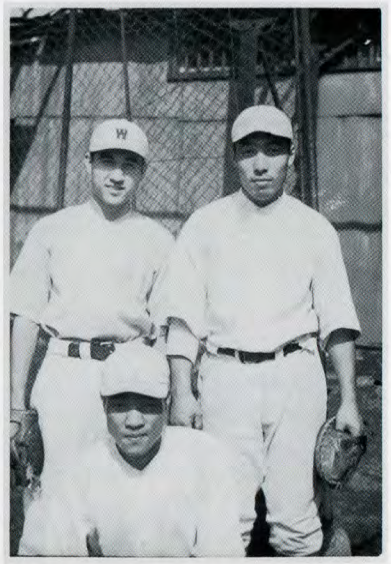
近藤清書翰　遠藤健三宛

1943年6月18日　岐阜県立岐阜商業高等学校所蔵

私達は岐阜商業入学以来、松井さんには親身も及ばぬ程面倒を見て戴き何かにつけて心細かく御指導御鞭撻下さいまして、誠に夢にも忘れてならぬ、いゝ先輩でした。兄とも慕った松井さんの為なら、水火をも辞せない気持だけは持って居りましたが、斯様な事になりますとは落胆これ以上のものは有りませんでした。でも松井さんは男子として皇国の為に立派にお役に立って戦死なされた　こ　とを思ふとき　あと一年の学生々活を立派に了へて　必らず仇をとりますと誓はないではゐられませんでした。

森本多美子氏（松井栄造実妹）談

兄栄造が亡くなってしばらくした後、遠藤の奥様が浜松の私たちの家にいらっしゃいました。母と私で出迎えました。家のすぐ裏手にお墓がありましたので、私が奥様を案内しました。家に戻ると、奥様は別れを告げられました。そして　そのまま消息を絶たれました。



前 近藤清、後左 松井栄造、後右 小野欣助（清水昇氏所蔵）

※今日から見て不適切な表現も　資料の歴史的性格を考慮し、そのままとしました。

写真協力　博文館新社